

第10回 まちとすまいの集い

# 都市を「見る」

—歴史・環境・災害—



日時 2008年11月22日(土) 13:20~16:30  
場所 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール  
主催 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室  
後援 (社)日本建築学会 東海支部  
(社)空気調和・衛生工学会 中部支部  
(社)建築設備技術者協会 中部支部  
(財)名古屋都市センター  
(社)日本建築家協会 東海支部  
(社)日本建築構造技術者協会 中部支部  
連携 なごや環境大学

## プログラム

13:20 主催者挨拶 (建築学教室主任 福和伸夫)  
13:30 講演1 西澤泰彦「都市の変化とその記憶」  
14:20 講演2 飯塚 悟「都市温熱環境の変遷 -現在・過去・未来-」  
15:10 休憩  
15:20 講演3 飛田 潤「地盤環境から見た都市の災害危険度の変遷」  
16:10 質疑応答・ディスカッション  
司会：森 保宏

なお、12:30より各種展示、環境シミュレーションスタジオ、地域防災交流ホール(4階)をご覧になれます。



なごや環境大学 連携講座

平成 20 年度 まちとすまいの集い

## 都市を「見る」ー歴史・環境・災害ー

日常生活の中では感じる事が少ないが、都市や建物は絶えず鼓動し、変化している。その変化は、地形の変化や都市の拡大・拡散、土地利用・建物用途の変化などのように数百年～数十年のスパンで見ることが出来るものや、都市を流れる風や気温の季節変動・日変動など1年～1日の間で見られるもの、さらには、強風・大雨や地震時における数時間～数十秒の間に起こる出来事のように、様々な時間長さ・スピードで観測される。ここでは、このような「変化」や「動き」を、写真、地図、CGなどによって可視化することで、日常とは違った観点から都市の歴史や環境、災害について考える。

日時 2008年11月22日(土) 13:20~16:30  
場所 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール(下図参照)  
参加費 無料  
定員 100名  
主催 名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻建築学教室  
後援 (社)日本建築学会 東海支部  
(社)空気調和・衛生工学会 中部支部  
(社)建築設備技術者協会 中部支部  
(財)名古屋都市センター  
(社)日本建築家協会 東海支部  
(社)日本建築構造技術者協会 中部支部  
連携  なごや環境大学  
「まちとすまいの集い」はなごや環境大学連携講座です。

### 【お申込み方法】

下記の申込用紙に必要事項を記入して、FAX または郵送してください。インターネットでのお申込みも受け付けております。申込み専用ページ(<http://www.nuac.nagoya-u.ac.jp/machi/>)より必要事項を入力の上、お申込みください。

### 【お申込み・お問い合わせ先】

名古屋大学建築学教室  
まちとすまいの集い事務局(担当:田村・坂倉)  
〒464-8603 名古屋市中種区不老町 C2-5(652)  
TEL:052-789-3587



## 講演概要

西澤 泰彦(にしざわ やすひこ)  
専門分野:建築史、土木史、技術史  
「都市の変化とその記憶」



日本の多くの都市は、江戸時代に造られた骨格・基盤を使いながら、明治時代以降、都心の高密度化と郊外への市街地拡大を図ってきた。現在の都市は、そのような蓄積の上に成立しており、一世紀単位の時間軸を設定すれば、都市は動的に変化している。しかし、日々の生活の中で、都市の動的変化を実感することは稀である。ここでは、都市の中に残っている都市の変化を示すモノを紹介しながら、都市の変化とその記憶の重要性について考えたい。

飯塚 悟(いづかさ とる)  
専門分野:建築・都市環境工学、環境流体工学、数値流体工学  
「都市温熱環境の変遷ー現在・過去・未来ー」



名古屋などの大都市では、高層ビルの建造や緑地の減少といった土地利用状況の変化、空調排熱や交通排熱などの人工排熱の増加により、ヒートアイランド化が進行し、特に夏の温熱環境の悪化を招いてきている。本講演では、過去から現在への時間軸の中で、都市の温熱環境がどのように変遷してきたのかをコンピュータシミュレーションを駆使して視覚的に分かりやすい形で再現する。過去と現在のシミュレーション結果の比較により、変遷の主要因を具体的に探る。また、風の道や緑化の導入、高反射性・保水性建材の利用など、幾つかの温熱環境改善シナリオを策定し、その未来予測を行う。

飛田 潤(とびた じゅん)  
専門分野:地震防災、地震工学、耐震工学、建築構造  
「地盤環境から見た都市の災害危険度の変遷」



東海地域は100年前後の周期で巨大地震災害を繰り返し経験してきた。しかし、昭和19年の最後の東南海地震から60余年は大きな地震がなく、この間に名古屋都市圏は著しく集積・拡大し、われわれの生活は複雑化した。埋立地や造成地など地盤条件から見て災害危険度の高い場所に意識することなく住み、便利ではあるが他者に依存した生活を当たり前のよう送っている。したがって、ひとたび大災害に襲われたときの被害はかつてとはまったく異なる様相を示すはずである。ここでは、さまざまな地図や地盤情報から名古屋都市圏の地形・地盤構造と都市の変遷を可視化し、そこから将来の大災害の姿と、われわれがいますべき備えを考えてみたい。

キリトリ線

名古屋大学 平成20年度 まちとすまいの集い 参加申込用紙

氏名 所属

住所 〒

電話 FAX

E-mail

事務局 / FAX: 052-789-3773

申込締切: 11月13日(木)